

研究大学強化促進事業に関する平成25年度意見書

●評価者：A

(1) 教育研究チームの育成について

人的、物的な重点配分を含めて、部局を超えた Mission oriented の教育研究チームの育成が必要である。

(2) Institutional Research について

Institutional Research 機能の強化が必要である。

●評価者：B

(1) 目標の立て方について

ア：アプローチについて

研究力強化と言う本筋に対するアプローチ/中間目標をしっかりと考えた方がよい。

イ：「世界ランク 100 位内」という目標の対策について

「世界ランク 100 位内」という目標を単科大学が達成するのは大変である。対策としては、下記2点が重要である。

① 医科歯科だけを対象とした場合のランクを考える。

② ランク 100 位内に向けて徹底的な国際交流などの特別なアプローチを行うチームを作るといような対策が必要となる。

ウ：研究力向上に必要な点について

10年間の助成期間の間に本格的な研究力向上を達成するために必要な点を考える際に、幹となる活動領域の柱、それに対する中間的柱を考えるとよい。

エ：イノベーションに向けての取組強化について

治験などイノベーションに向けての取組強化（センターの設立など）に期待したい。この点は、他大学と比べてTMDUが差別化を図れるだけの取組みになる可能性がある。

オ：国際化について

国際化に関しては、「国際共著論文を増やす等」の研究力強化、「ランキング向上」に結びつくようなアプローチを積極的に考えるとよい。

(2) URA について

ア：評価について

人員規模の大きさ、プレアワードに向けた地道なベースアップのための活動は評価できる。今後のポストアワード、先進医療の立ち上げに注目したい。

イ：先進医療について

先進医療は他大学のURAにはない機能であり、強みとなる可能性が大きい。どう言うアウトカムを目指し、どう言う体制構築で活動していくのかをよく検討して欲しい。

●評価者：C

(1) ランキングについて

ランキングアップのために重要なものの一つが国際化と考えるが、海外との交流に関する競争的資金を獲得するなどの努力が見られており、一定の成果が得られていると思われる。産学連携を初め、事務レベルでの国際化についても検討が重要である。また、教員は外国人をどれくらい取れるかがポイントである。研究所はセミナーをすべて英語にするなどの特色を出してみても如何か。

(2) 女性研究者について

優れた女性研究者を育成することに成功している。

(3) 倫理教育について

研究の不正が起こった場合、研究力が一気に落ちるため、倫理教育についてはupdateの対応が必要である。コピー&ペーストの検索ソフトの導入は抑止効果がある。

(4) 新たな分野について

新たな分野（バイオインフォマティクス、生物統計）をとり入れた場合、研究の成果が期待できる可能性がある。

●評価者：D

(1) URAについて

RUの10年間と言う時限を活かした長い目で、URAの育成が可能である点が強みの一つと考える。数年を経た頃から時限終了後の処遇が問題となる可能性がある。他大学の模範となるようなURAのキャリアアップシステムを構築して頂きたい。

(2) 大学の取組みについて

これまでの貴学の取組みが synergistic に効いてきていると考える。テニユアトックの**さんが疾患バイオリソースセンター設営のキーパーソンとして早くも活躍していること等が好例である。大学院学生の複数指導教員体制の確立も素晴らしかったが、スキーム作りが動けば全学にも拡がりやすいと考える。疾病予防科学コースの成功が疾患バイオリソースセンターの活動と良好にリンクすることに期待したい。

(3) 今後の課題について

URA室と産学連携推進本部等産学連携部門の連携、統合は今後の大きい課題の一つと考える。URA「プロパー」と対極にIP-Specialistとを配し、この間で両方のトレーニングを行う体制、仕組み作りが必要と考える。臨床研究支援の機能もURA室の役割に構想されていることも大変良い。

●評価者：E

(1) グローバル化について

グローバル化の具体的な取組みが見えない。

(2) 女性研究者について

女性研究者の利用に関する具体的な取組みが見えない。